

おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会 会議録

日 時	令和2年11月4日（水曜日） 14時00分～15時30分
場 所	阪南市役所 3階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	委員 久（委員長・近畿大学）、三星（副委員長・近畿大学）、近藤（池田泉州銀行）、原田（連合大阪）、和田（ジェイコムウエスト）、後藤田（公募市民）、下神（公募市民）、鳶岡（南海電鉄）、田川（関空エアポート） 阪南市 総務部長 森貞 行政経営室：室長 藤原、室長代理 高倉、総括主査 太田、奥野、大家
傍聴	なし
議事項目	① 開会 ② 議事 （1）第2期総合戦略（素案）について （2）意見交換 （3）その他 ③ 閉会
会議資料	次第 名簿 資料1 創生委員会の主な意見に対する対応案 資料2 第2期総合戦略（素案）Version2.1 参考資料1 第2期総合戦略（素案）Version2.1 概要版 参考資料2～5 重点施策のイメージ案

議 事 内 容

1. 開会

事務局

- ・委員総数 15 名に対し、9 名の出席。委員の過半の出席が確認できたため、創生委員会条例第 16 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを報告。
- ・会議の公開は本市の自治基本条例に基づき、委員会は原則公開。本日の傍聴者はなし。

2. 議事

（1）第2期総合戦略（素案）について

委員長

- ・それでは、事務局からご説明をいただきたい。

事務局

- ・前回の主なご意見を資料1にまとめた。資料2については、追記に網掛けしている。関連写真・グラフや用語集についても追加した。資料1と資料2を合わせてご覧いただきたい。
- ・項番1、企業版ふるさと納税について。P.7に「企業版ふるさと納税（人材派遣型含め）を積極的に活用する」ことを追記。また、具体的な施策では、P.41に「企業版ふるさと納税の活用」と記載。
- ・項番2、P.9からP.16に「ペルソナ」を記載。
- ・項番3、P.20に「部局間での政策連携の強化」について追記。
- ・項番4、P.26に「ユニバーサルデザイン」について追記。
- ・項番5、P.28に尾崎駅周辺をモデル地域とする旨を追記。
- ・項番6、P.30に「市民のICTリテラシーの向上」について追記。
- ・項番7について。総合戦略は、施策レベルであることから、具体的な事業については、今後、策定予定の地域再生計画等に位置付ける。なお、事業の一例については、P.30などに記載している。
- ・項番8、P.32に将来的な出生率向上の土壌づくりについて、事業例を記載。
- ・項番9、P.34にテレワークの広がり言及し、新しい働き方への支援について記載。
- ・項番10、P.41に大阪を代表する里海山づくりのモデル都市をめざすことについて追記。
- ・項番11、P.41にせんなん里海公園の活用について追記。具体策は、今後、大阪府と調整する。
- ・項番12について。ご指摘の点については、現状の総括のなかには入れていないものの、「ファミリー・サポート・センター」事業や保育所案内業務（登降所時の見守り等）や保

	<p>育所内の植栽の剪定において、多世代の方々に子育ての一端を担っていただいている状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項番 13、第2期総合戦略は子育て世帯に特化しており、高齢者施策については今年度から来年度にかけて策定する次期総合計画に記載する予定。 ・項番 14 について、手に取ってもらえるよう表紙等を工夫するとともに、P.9 から P.16 の「ペルソナ」については読みやすいように話し言葉で記載している。 ・項番 15 について、本戦略の策定後は、さまざまな機会を通じて発信に努める。 <p>・なお、資料 2P.44 に人材バンク制度について追記した。今後整備を進め、協働によるまちづくりを推進し、定住促進を図りたい。</p>
(2) 意見交換	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、最後の委員会。出し切れなかった意見は、早めに事務局に送ってもらいたい。 ・事務局に質問。スマホでのプッシュ通知が、最近のトレンド。阪南市でアプリを活用している事例はあるか。 ・茨木市は、市役所独自のイバライフというアプリを作って、情報発信をしている他、マチイロというアプリでの広報を見ることができる。 ・阪南市で、クーポン券の発行など、アプリを使ってまちの魅力付けなどを行っている例はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本市もマチイロを使用しており、広報誌についてはプッシュ通知が可能。その他については、把握していない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリ展開は、プッシュ通知が非常に武器になる。事業化の時点で、考えてほしい。 ・ホームページについても工夫が必要。 ・近畿大学は、縦長のホームページでスマホ表示をメインとしたデザインになっている。これからはスマホの時代なので、様々なスマホタブレット向けの戦略をとってほしい。 ・P.30 の事業イメージについて。シビアな言い方をすると、これが完成したとしても先進的などころに追いつくだけ。追いつくのではなく、突き抜けないといけない。事業化にあたっては、突き抜けることを念頭においてほしい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・P.44 まちづくり人材バンクについて、抽象的でわかりにくい。他にも特徴が追記できないか。 ・「まちへの愛着」と「定住への機運醸成」を並列とすることに違和感がある。また、目的が人材育成か人材活用かもわからない。目標5人の人材活用とは何なのか、説明が必要では。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・この指標を設定したのは、自発的に町を活性化するために動いてくれる人材が必要と考えたことによる。 ・「まちへの愛着」については、阪南市に対する愛着と誇りをもっていただくために発信していくこと、「定住への機運醸成」はその結果起こってほしい効果として、記載した。 ・目標人数だが、年間1・2人、まちづくりを自主的に進めている人を発見したいという意味合いである。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意図は理解したが、もう少し強いインパクトがある書き方にならないか。まちづくり人材のとらえ方も狭いように思う。たとえば、市民大学講座を大きく開こうということであれば、阪南市には高校や大学の先生が何十人もおり、里山マスターのような人もいっぱいいる。そのような人材も含めた人材を位置付けると、もっと大きな人数になるのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような行動をまちづくり人材に期待するかで、目標人数が多いと思うか少ないと思うかは変わってくる。 ・まちづくり活動をビジネスにしている人を数えると、その目標でも大きい。 ・例えば、生駒市でまちづくり活動をしている団体から今相談を受けているのだが、ビジネスとして市の事業を受託するにあたり取得すべき法人格について相談を受けた。そういう方々も人材だし、これから一步を歩みだす人も人材。5人が多いか少ないか、目標とする人材の性質による。 ・ノウハウのある高齢者を如何に巻き込むかも、重要な課題。 ・例えば、金融機関のOBを巻き込むと何が期待できるか、例示する。まちの課題である、空き家の活用について、ただ講座をしても、参加者は集まらない。しかし、これからの資産活用（リタイア後の資産活用）の講座には人が集まる。資産活用の講座の参加者に、次

	<p>は空き家の活用をしませんか、と持っていくと、ある程度集客が期待できる。このように、winwinの関係を構築できれば、うまく展開していく。うまく展開ができるような人材バンクになればいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記は例だが、運用の際はイメージがあったほうがうまくいくと思うので、参考にしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクに関連して、定住の促進について。市の魅力をPRするにしても、市民をメインにするのか、北摂・奈良・神戸などから来てもらうようにするかによって、発信の仕方が変わるのでは。 ・魅力的なものがあるのに、PRが足りていない。配付のあった阪口委員と同意見である。 ・銀行は地域に密着しており、住民の減少すなわちお客様の減少は死活問題である。具体的な事業の書き込みが足りないと感じる。駅前の活性化にしても、本格的に動かないと、駅前もすたれていく。 ・外見だけ変えるような取り組みではなく、中身も変えた広報が必要。池田市や滋賀県のようなyoutube配信などの先進的な取組をしないと危機的状況は変わらない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局と先進的な取組を模索してきたが、なかなか書込むまでには至らなかった。事業化の段階で、阪南市は何が魅力なのかを一緒に考えてブラッシュアップしていきたい。 ・イバライフのようなアプリの場合は、登録しないと見れないというデメリットがある一方、登録させることで情報を送り込める（プッシュ通知）。ホームページや広報誌は情報を発信するプル型であるため、アプリで情報を送り込めるプッシュ型で機能を補完することは非常に有効。 ・〇〇ならではの強みに関連し、私事を含めてお話をすると、もともと大阪府北部に居住しているため池田銀行と取引をしていた。池田銀行が泉州銀行と統合したところにより、大阪南北で支店が増え、阪急・阪神・南海電鉄の主要駅に設置されているPatSatを含めると、行動範囲をほぼカバーしており、非常に有用であり、池田泉州銀行ならではの強みであると認識している。 ・このような、阪南市ならではの市民にとっての魅力は、事務局としてはなんだと思うか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・悩ましいところであるが、従前からの強みとしては、都市圏近郊では自然が豊かであるというところ。最近では海を基調として活動が盛んなので、そこを大阪府や近隣市町を牽引するポイントにしたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は、生まれが鹿児島で、父親の転勤と自分の転勤で日本全国を飛び回った経験がある。何の所縁もない阪南市に定住することとした理由は、都市圏で海と山を有している居住環境。都市圏でこれだけの海浜公園があるところは、なかなか無い。二十数年前に阪南市に来て、よかったなと思っている。自然の豊かな環境で子どもが育つのが、どういうことが想像してほしい。海と山が近いということは、友達同士で釣りに行ったりなど、都市圏では難しい経験が自然に生まれること。例えば、里海公園で、近畿圏内のナンバーをよく見る。和歌山には、海はあるが海浜公園は無い。加えて、里海公園には、子どもが好むような遊具が抜群に多い。 ・阪南市の情報発信が残念な例。桃の木台に住んでいると、登山もすぐ出来る環境だが、惜しむらくは、阪南市がハイキングコースの入り口に立てている行き止まりの看板。車道としては確かに行き止まりだが、ハイキングコースとしては入り口。この看板についても、検討いただきたい。 ・規模の違う市と比較して同様のサービスはできないと思うが、予算をかけずにできることはあると思っている。P.43をはじめ、大学との連携について言及があるが、例えば、和歌山大学で「ローカルインターンシッププログラム」という制度があり、学生に交通費だけ支給すれば、まちづくりや地域の活性化をやってくれるものがある。数年前、岬町がこの制度を活用し、ウォーキングマップを作ってもらっていた。資料の総合戦略は、よくできた案だが、具体案が見えないことが不安。予算がないのは分かっているので、低コストで活用できる大学との連携などを行ってほしい。申請時期が今年度の場合もあるので、早め早めに具体化し、制度を活用してほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・阪南市でニュータウンが開発されていたところに、なぜ阪南市が選ばれたのかがわかると、強みが見える。 ・大阪市に勤務している場合、勤務地を中心として、東に行くと奈良県、北に行くと北摂や兵庫県東部、南に行けば阪南市という選択肢がある、なぜ阪南市に彼らは来たのか。他の選択をした人とは嗜好が違うのではないかというのが分かると、強みの分析の一助になる

	のではないか。
事務局	・事業化にあたっては、一昨年の転入転出者アンケートの分析を深めたい。
委員長	・20・30年前の、ニュータウンにやってきた人の嗜好も大事にしてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・関空の影響により、LCCによる来訪客の増加も含めて、泉南地域に対する民間の目が変わってきている。泉南市のロングパークや泉佐野市のアウトレットなどが一例。 ・阪南市は住宅都市として発展したため住みやすい一方、土地の用途、つまり用途地域の設定が住宅仕様になっている。土地はあるけど用途が合わないため、企業からのニーズに応えることができていない。阪南市をモデルチェンジする段階に来ていると思う。別の計画にはなるが、これから策定を進める総合計画の目玉として、土地利用構想を変えたいと思っている。個人の財産の価値に直結するが、この流れを何とか活かしていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の総務部長の話に関連して、立地企業数の目安として紹介する。マイナスの意味で突出している阪南市の数字として、令和元年度大阪府労働関係調査での労働組合数と加入者数がある。阪南市と規模が似ている、いわゆる類似団体で比較すると、高石市25団体2,383人、泉南市16団体2,127人のところ、阪南市5団体527人となっており、団体数・加入者数が共に桁違いであることがわかる。この数字には、阪南市職員組合300を含んでいるので、民間企業の少なさは群を抜いていると言わざるを得ない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・工場誘致については、慎重意見を述べておきたい。和歌山県は加太に莫大な工業用地（コスモパーク加太）を擁しており、淡路島と橋でつなぐ構想があるとのこと。また、貝塚市の工場用地も余っていると聞く。そこと競合することを考えると、土地利用を変更してまで工場誘致を積極的に考えるほどのものか、と思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用構想については、これからの議論になる。変更したいというのは総務部の意向だが、事務局としても慎重に議論したいと考えている。申し上げたかったのは、税収の面でプラスとなるところがなく、財政が厳しいこともあるので、土地利用をフレキシブルに考えたいと思っている、というところ。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関空の件について、話題を紹介する。空港の拡大とともに、空港で働く人数が大変増加している。その中で、最もアクセス状況の良い泉佐野市の賃賃が高くなっていて、空港急行の動線上、従業員は泉佐野市より北に住む傾向にある。空港に働く人をいかに阪南市の住民にするかが課題ではないか。 ・近年の傾向として、空港業務の中での、外国人の労働者に頼っている分野が増えている。例えば、コロナ前には、グランドハンドリング業務が外国人労働者に頼らなければならぬ状況になっていた。ベトナムの人の採用を検討していた。泉佐野市役所が外国人労働者の受入れについて検討しており、話し合っている。外国人の受入れについては、賛否両論あると思うが、この流れは止められないくらい人手不足で外国人労働者に頼らなければならぬ状況。 ・泉南ロングビーチをめぐり、泉南市と関空の間でバスを走らせたいという話もあるが、収支的に難しい状況。阪南市も含めて広域的に考えるなど、工夫してみてもどうか。 ・阪南市の観光促進についても、泉佐野市りんくうタウン・泉南市から阪南市への連続性も考慮すべき。岬町の岬公園跡との連携もある。 ・和歌山大学観光学部は、地域と連携し観光促進するプログラムがある。連携し利用する価値があるし、行政が大学を育てて相乗効果を生む。 ・阪南市の強みが海浜公園ということであれば、ロサンゼルスやサンタモニカのように、若者が集まれる施設があれば、目先が変わるのでは。サンタモニカには、スケートパークやアスレチックなど若者が遊ぶような遊具がある。若者が集まるような仕掛けとしてどうか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の話について、事例を紹介する。行政の外国人への広報について、浜松市が突き抜けて頑張っていることがわかった。たとえば、給付金の申請ひとつとっても、10か国語で申請書の書き方を丁寧に説明している。外国人が多いからこそ頑張りであるが、阪南市がその部分を充実させるのも、外国人住民に選ばれるための一つの選択肢になると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は20年前に桃の木台に引っ越してきた。自然が豊かで、子育てをするうえで、環境の素晴らしさに惚れこんだことが理由。実のところ、大阪府の企業局が肝いりで開発したとのことで、もっと発展すると思っていた。それでも、自然が豊かで、星もきれいに見えることには満足している。信州に旅行に行ったときも、自宅近くのほうが星空が綺麗だと感じたほど。

	<ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致の面について、阪南市はもっと真剣に考えるべきだと思う。いくつか、工場誘致もとん挫したと噂になったこともある。先日、松風庵が大きな工場をオープンし、かなりの集客があると思うが、そこだけに頼るのではなく、もうすこし企業を誘致すべき。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・桃の木台が開発されたときの建築雑誌に、小学校が紹介されていた。いろんなことをもっとうまく PR して、ソフトなサービスも教育もパッケージして住みやすさを強みにする手もある。本当にとんがったものが難しければ、パッケージングでの勝負も一案。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・星が見えることに驚いた。自分が泉北に住んでいるが、堺・和泉・岸和田ではあまり見えないのが普通だと思っている。星が見えるまちというのは大きなウリではないか。 ・また、駅前についても、継続して整備が進んでいないことは残念。2000 年のバリアフリー法施行時、最低限の整備はしたが、昨年の法改正には対応できていないのではないか。法改正により、主要駅は一つのみへのアクセスではなく、エレベーター・エスカレーターなど複数のアクセスを選択できるよう、という内容の文言が加わった。山側のエレベーター、下りのエスカレーターが必要なのではないか。尾崎駅はまちの顔なので、イメージがプラスになる。富田林市は、駅前整備基本計画の継続改善の委員会において、格段にユニバーサルデザインの考え方を加味して、取組の特徴として出した。整備以前は、道は狭く権利関係が複雑で大変だったが、整備後はとてもよくなった。新しくしてから 4・5 年だが確実にプラスの評価が得られていると思う。取組は実施しないといけない。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・近藤委員からも、道路だけではなく駅前の整備についての話があった。南海沿線は様々なところで立体化（高架化）を進めているが、立体化をすると駅舎も全部入れ替える。連続立体化事業をするときは、立体化だけではなく、区画整理や再開発のようなものを組み合わせないと事業化できない。高石駅でも区画整理には苦勞をしたそうだが、駅前はきれいになった。区画整理は、地権者の合意が必要なので大変だと思うが、立体化へ持っていくと三星副委員長の問題も解決するので、どこかの段階で頭出しくらいは考えてもらいたい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・踏み込んで言えば、バリアフリー化を機にして他を整備するというのも有効な方法。川崎市などは、ユニバーサルデザインとバリアフリーを旗印として、整備を進めている。南海や JR も内部で計画を持っているのではないか。自分としては取組を強めたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の整備については、都市計画の分野なのであまり触れていないが、コンパクトシティのところで頭出しはしている。山側のバリアフリーについては、議会には報告している事業もあり、総合戦略にはニュアンスを入れているという状況。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前整備について、希望が持てる話だが、財政が厳しい中、そのような予算は組めるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業について、予算が関わってくるものがあるので、財政は確かにネックだが、財政面も踏まえて、出来る事業を進めたい、総合戦略において、方向性だけは示したいと思っている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業について、国から一定の補助金や交付金がもらえるものもあるので、市の負担を減らして、良い事業を実施してほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国補助金については 1/2 が多いと思うが、10/0 ではないので、阪南市の持ち出しもある。市にとってプラスかマイナスか、先があるかないか、十分考えて、事業を進めてほしい。 ・前回の総合戦略に基づいて実施した事業の中でも、地方創生関連だから事業費 1/2 はでるが、これに予算を使って市としては是か非か、日のものもあったと思うので、そこは十分に考えてもらいたい。今はやりの文言はいっぱい入っているが、それが阪南市の財政規模でマッチするかどうかは十分検討し、前回の反省を踏まえて進めてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・一期目の効果は確かに疑問符が付く。地方創生は、安倍前首相の肝いりだったので、財務省も声を上げにくかっただろうと思うが、全国的に疑問符が付く例が多い。中心市街地活性化は、財務省が声を上げて仕切り直しとなったと承知している。全国にたくさんのお金をばらまいている割に、どこまで創生につながっているか。使うならそれなりに効果の出るところにどんどん使うほうがいい。 ・今回は、若干対象を絞れたが、前は総花になったことが仇となった。 ・今回は、補助金や交付金を使った限りは効果が出るよう運用してもらうことについて、念を押ししたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・尾崎駅のエレベーター設置など、バリアフリー対応については、会社として単独ではなかなか難しいところもあるので、地域や行政と協力して検討していきたい。 ・南海電鉄の関連している他のエリアでも、たくさんニュータウンがある。従来は住宅地の

	誘致をしていた場所でも、雇用の生まれる場所の誘致に力を入れるところも多くなり、企業誘致はトレンドだと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • お金のかかる事業は南海電鉄も難しいと思うが、例えば、乗り継ぎの利便性を考慮したダイヤ改正など、以前に比べて不便になった関空より南の地域に対して、知恵を出してもらいたいところはある。そのあたりをまた一緒に考えたい。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 補足だが、車いすの友人曰く、ハード面では阪急や阪神が一步先を行っているが、駅員の親切さは南海が一番だとのこと。 • 東京から飛行機に乗り、大阪に着陸するために南から北上してくる時に夜景を見るたびに、大阪全域や名古屋あたりの空気汚染が目に見えてわかる。この地域はだいぶきれい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • スカイトウンは箱作から少し離れていて、光害があまりないので、星が良く見えるのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 自分が住んでいるさつき台も、星は綺麗に見える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 桃の木台では、近くの林に鳥が何種類住んでいるのかわからないほど、多様な鳴き声が聞こえる。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 自然が好きなグループに調査してもらって、ニュータウンでこれだけの声が聞こえるとパンフレット作ってもアピールになるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 実際に、男里川では野鳥の撮影が盛んに行われている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> • 阪南市のPRのお手伝いをしているが、もっと広い範囲でPRできるように努力したい。 • 海と山が突出した魅力なのは間違いない。カキの養殖を一番初めに始めて、カキ小屋で新鮮なカキを食べられたり、十四匠で地産アピールをしたりしている。先ほど話の合った観光学部との連携でも、担当課で進めていると承知しており、阪南市の youtube 番組もある。積極的にいろいろやっているが認知されていない状況。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • メディアに取り上げてもらうには、付加価値や特徴がないと難しい。Jcom の番組を分析すると、一つのデータになると思う。Jcom には、どローカルというアプリがあり、エリア外でも番組を見ることが可能。アプリをうまく活用してコラボしてほしい。 • 今日いただいたご意見については、策定作業の終盤ということもあり、組込み方を含め委員長と事務局に一任でよいか（異議なしの声）。
(3) その他	
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • その他として、事務局から連絡事項等をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 今後のスケジュールについて。今日の意見を踏まえ、調整の上、議会に報告。年明けにパブコメを行い、年度末の成案化を目指す。今年度は、今回が最後の委員会となる。今後は、案内があれば、書面にてご連絡する予定。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 本日の委員会は、これまでとする。

－以上－